

私立大学研究ブランディング事業 29年度の進捗状況

| | | | | | |
|------------------|---|-------|-------|------|-------|
| 学校法人番号 | 13108 | 学校法人名 | 國學院大學 | | |
| 大学名 | 國學院大學 | | | | |
| 事業名 | 「古事記学」の推進拠点形成—世界と次世代に語り継ぐ「古事記」の先端的研究・教育・発信— | | | | |
| 申請タイプ | タイプB | 支援期間 | 5年 | 収容定員 | 8750人 |
| 参画組織 | 全学(文学部・経済学部・法学部・神道文化学部・人間開発学部・研究開発推進機構・教育開発推進機構) | | | | |
| 事業概要 | 近世国学を継承する本学創立以来の研究蓄積を基盤に、日本文化の根幹である『古事記』の先端的研究を推進する本「古事記学」は、21世紀の『古事記』編纂を目指す。即ち『古事記』を人類共通の遺産として位置づけ、日本文化の独自性と普遍性を示すとともに、伝統文化継承の担い手を育成することを目的とする。以て本学が世界と次世代に『古事記』を語り継ぐ独自の拠点となることで、日本文化の新たな創造と発展に寄与する。 | | | | |
| ①事業目的 | 本事業では、國學院大學(以下、本学)において創立以来130年以上にわたり継承されてきた学知に基づく学際的・国際的観点から『古事記』を再定位し、本学独自の「古事記学」の見地による、21世紀の『古事記』となる注釈書を編纂して、その研究成果を国内外に発信し、なおかつ教育へと還元するシステムを構築する。そして『古事記』に立脚し日本文化の新たな創造と発展に寄与する世界的な研究拠点となることが目的である。 | | | | |
| ②29年度の実施目標及び実施計画 | <p>「古事記」研究の国際展開 〈研究〉「古事記」関連ライブラリーの設置 〈教育〉「古事記学」関連の講義実施・テキスト編集開始 〈発信〉国際発信に向けたコンテンツの構築</p> <p>①ポストドク(PD)研究員等の雇用(最終年度まで) ②多言語(英・仏・中・韓)による「古事記学センター」HPの開設 ③「古事記学センター」SNSの開設 ④学内定例研究会の実施(最終年度まで) ⑤『古事記』関連資料の収集とデジタル化(最終年度まで) ⑥自己点検・評価および外部評価の実施(最終年度まで) ⑦共通教育科目「古事記学」の開講 ⑧『古事記』関連レファレンス環境の整備 ⑨本学関連団体と連携した講演等の開催 ⑩外部機関と連携した学際的・国際的ワークショップの開催 ⑪国際シンポジウムの開催(テーマ「時空を超える〈言葉〉—神話の翻訳をめぐる—」) ⑫The European Association for Japanese Studies(EAJS、ヨーロッパ日本学会)への参加 ⑬データベースの公開に向けた準備 ⑭『古事記』関連の特集展示 ⑮『古事記』関連アプリの作成開始 ⑯『古事記』入門書・『こども古事記』の編集開始 ⑰『古事記』絵画コンテストの開催 ⑱『古事記』の英訳作成と公開 ⑲成果報告論集『古事記学』第4号、刊行</p> | | | | |
| ③29年度の事業成果 | <p>〈研究実施体制〉 研究実施体制は、本学の21世紀研究教育計画委員会のもとに、学長を委員長とする古事記学研究実施委員会が設置されており、研究教育計画及び人事等に関する事項を審議決定している。それを受け、28年度に新設された古事記学センターでは、主として研究事業の根幹となる注釈書編纂に従事する(本文校訂・注釈研究史)担当のグループⅠ(30名)と、〈国際研究・発信〉を担当するグループⅡ(全9名。Ⅰグループとの重複6名)、そして〈教育研究・発信〉を担当するグループⅢ(全13名。Ⅰグループとの重複8名)に分かれ、それぞれのグループに本学教員が配置され、研究を分担している。加えて、平成29年度は客員研究員2名、PD研究員3名、研究補助員2名、臨時雇員3名を雇用した(実施計画①)。</p> <p>〈研究〉 古事記学センター内に書架を設置し、『古事記』関連資料の収集と整理を行い(⑧)、随時デジタル化を進めている(⑤)。学内定例研究会は、平成29年度は全7回開催し学際的研究を行った(④)。また、神話の翻訳・多言語化を主題とした国際シンポジウム「時空を超える〈言葉〉—神話の翻訳をめぐる—」(平成30年1月20日(土))を開催した(⑪)。イギリスにおける学術講演や今後の連携の協議、また皇學館大學との連携研究会など、国内外の本学関連団体と連携した講演等の開催(⑨)、外部機関と連携して、日本の宗教研究・教育をテーマとした国際研究フォーラム「日本の宗教はどう教えられているか」を開催した(⑩)。また、ボルトガルで開催されたThe European Association for Japanese Studiesへ参加した(⑫)。</p> | | | | |

| | |
|--------------------------------------|--|
| <p>③29年度の事業成果</p> | <p>〈教育〉 教育への還元として、平成29年度後期に共通教育科目「國學院の学び(古事記を諸分野から読む)」を開講した(⑦)。また、『古事記』の正しい理解および日本文化への関心を促すことを目的として「古事記アートコンテスト」を開催し(⑩)、合わせて國學院大學博物館内の校史展示室にて、『古事記』関連の特集展示(平成30年1月18日(火)―3月11日(日))を行った(⑭)。その他、『古事記』入門書・『こども古事記』の編集を開始した(⑯)。</p> <p>〈発信〉 29年度の事業成果は、成果論集『古事記學』第4号として平成30年3月10日に刊行し(⑰)、「古事記学センター」HPにおいて、神名データベース、氏族データベース、研究文献目録の入力・校正を終えた分、および天地初発部分の英訳を公開した(②⑬⑱)。また「古事記学センター」SNSを開設し、研究会の告知・報告等を行っている(③)。 事業内容については、自己点検・評価および外部評価を実施した(⑥)。</p> |
| <p>④29年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p> | <p>〈自己点検・評価〉 事業成果からも明らかのように平成29年度は実施計画に基づき事業を遂行することができた。平成28年度より継続して参画教員の増員とグループ構成の見直しを行い組織体制強化を図った。 平成28年度における外部評価にて課題として指摘された4点についての改善は、次の通りにした。 (1)人員の偏りとグループ間における研究成果の多寡(特にグループⅢの研究成果)については、新たに構成員を配置し、グループ間で均一な配置になるよう改善した。またグループⅢは新たに2人の構成員を置き、古事記アートコンテストの主導・開催、またグループⅢ主導の研究会を行った。 (2)英訳以外の国際発信については、テーマを『古事記』の翻訳とし、英語だけでなく、イタリア語訳、フランス語訳を手がけた研究者を講師として招聘した国際シンポジウムや日本国内に務める外国人研究者やアメリカやドイツの研究者を招聘した国際研究フォーラムの開催、また日本研究の国際組織であるThe European Association for Japanese Studiesへ参加し、発表を行った。あわせてHPの多言語化を進めている。 (3)関係諸団体との連携強化については、イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と今後の連携を協議するとともに、皇學館大学との連携研究会を行った。また次年度中間総括シンポジウムに向けて宮崎県との連携・協議を行った。 (4)HPの改善(学内HPとの区別の明確化)については、多言語による「古事記学センター」HPを作成し、成果を集約・発信できる環境を整え、神名・氏族データベース、研究文献目録、および『古事記』の英訳を公開した。あわせて「古事記学センター」SNSの開設し、研究会・シンポジウム等の告知・報告を行うことにより、HPと連動してより広く情報の公開が行われた。 HPやデータベースなどのデジタルコンテンツのさらなる拡充とともに、次年度に繰り越されることとなった『古事記』関連アプリの作成を行いたい。</p> <p>〈外部評価〉 学外の有識者と研究成果を波及させる団体からなる外部評価委員会より、以下のような評価が寄せられた。 まず、研究実施体制については、古事記学研究実施委員会を設置など、円滑な事業推進を目指した運営が行われていることが評価された。一方で、研究会やシンポジウム等における事業側の報告者・登壇者が一極集中しており、多くの分野から報告・登壇することが期待された。 グループⅠの研究成果としては、成果論集の註釈や論考、翻刻等に加え、学内定例研究会の開催や『古事記』関連レファレンスの整備など、事業計画にそって作業が進められていることが評価された。グループⅡとしては、海外の研究者及び機関との研究交流や国際シンポジウムの開催、多言語による「古事記学センター」HPによる情報発信を行ったことが評価された。グループⅢの成果としては、共通教育科目「古事記学」の開講したことが評価されたが、次年度に繰り越された『古事記』の入門書および『こども古事記』の出版が期待された。 全体として、研究実施体制の拡充と整備が図られたことにより、本事業が実施計画にそって適切に展開していることが評価された。データベースなどを追加した「古事記学センター」HPの拡張が評価される一方、さらなるHPの拡充と広く一般へその活用を促すことが期待された。また、古事記や神話にゆかりの地域でのワークショップなど地方との連携を行うことや、一般紙や事業が行われる地域との関係で地元紙への広報活動など、本事業の成果をより広く社会に還元することが期待された。</p> |
| <p>⑤29年度の補助金の使用状況</p> | <p>平成29年度の補助金については、申請時の事業計画書に基づき、本学に設置した古事記学研究実施委員会にて方針を確認しつつ、古事記学センターによって作成した予算案に従い下記の通り執行した。</p> <p>〈研究費〉 [報酬・謝金]国際シンポジウム講師謝金 [消耗品費]事務用品 [用品費]パソコン・プロジェクター [図書資料費]古事記関連図書 [印刷製本費]成果論集印刷代、ポスター・チラシ印刷代、事業報告書印刷代 [通信運搬費]成果論集発送費、ポスター・チラシ発送費</p> <p>〈広報・普及費〉 [労務委託費]「古事記学センター」HP作成委託費 [研究旅費]国際シンポジウム講師招聘旅費</p> <p>〈その他〉 [人件費]客員研究員・PD研究員・研究補助員・臨時雇員(アルバイト)人件費</p> |